

なごやか地域福祉 ニュース



2017. 春
第24号



平成27年度にスタートした『なごやか地域福祉2015』は、今年度で3年目に突入しました。28年度は、3つのワーキンググループを作り、計画の中で未実施項目となっている事項を中心に検討を重ねてきました。

今回のニュースでは、前年度のワーキンググループでの検討の様子をお伝えします！！

＜ワーキンググループの様子＞



A グループ 取り組むべき方向性『つながり支えあう地域をつくる』

【28年度 検討テーマ】

- ① 市内で実施する「見守り」に関連する事業の情報共有の仕組みや連携方法について
- ② 本市における「個人情報」の取り扱いについて

Aグループでは、上記2点のテーマについて検討を重ねてきました。①のテーマについては市内で実施される「見守り」に関連する事業について、事業内容・取り組みの整理、各事業間の情報共有の仕組み、効率的な事業実施のための連携のあり方などについて検討を進めています。②のテーマでは、地域活動の実践者がより活動しやすくなるために、他都市の事例を参考にしながら、本市で実施される「見守り」に関連する事業で扱う個人情報について整理し、取り扱いに関するマニュアルづくりを進めています。

B グループ 取り組むべき方向性『地域の「暮らし」に支援を届ける』

【28年度 検討テーマ】相談支援の総合化

- 個人や世帯の抱える複合的な課題などへの包括的な支援の検討
- 分野にまたがる総合的な支援の検討

平成28年度は、「地域共生社会」の実現に向けた厚生労働省の動きに併せ、名古屋市における相談支援のあり方について、検討を重ねました。8050（80代の親・50代の子）、ダブルケア（介護と育児など）などの具体的なケースを通じて、各機関の連携による対応やコミュニティソーシャルワーカーについての議論を進めています。

C グループ 取り組むべき方向性『地域で活動する多様な担い手を育む』

【28年度 検討テーマ】

- ① 地域の担い手として、若者を呼び込むための取り組みの検討
- ② 新たな担い手が参加しやすい活動の条件や環境整備のあり方の検討

Cグループでは、上記2点のテーマについて検討を重ねてきました。①のテーマについては大学生を地域活動に巻き込むための最初の入り口として、現在各大学と協議を行う「大学ラウンドテーブル（仮称）」の設置について検討を進めています。②のテーマでは、新たに担い手となる人にとって、どのような条件や環境が整えば参加しやすくなるのか意見を出し合い、身近な相談窓口の整備や活動情報の充実化などの担い手確保につながる検討を進めています。



それぞれの地域での「連携・協働」の取り組みを紹介します！



＜弁天マルシェの様子＞

地域住民に親しまれる商店街を目指して

西区にある「弁天通商店街」では、市内大学等と連携して商店街の振興や地域住民の交流を深めるための取り組みが広がっています。

弁天通商店街理事長の沢井さんにお話を伺うと「時代の流れとともにだんだんと商店街の中で空き店舗が目立つようになり、また、弁天市場で生鮮品を販売するお店が閉店したこともあり、日常の買い物に不便を感じる住民の声を耳にするようになりました。

そこで、商店街として、地域の高齢者などの買い物に不便を感じる方への支援、さらには地域住民の賑わいと交流の居場所づくりができないかと考えました。」と話されます。

勉強会や視察を重ねた結果、同商店街では、平成24年7月には、朝市「弁天マルシェ」がスタート！朝市「弁天マルシェ」では、月2回（3日、第3土曜日）に地元商店街、地域外の店舗による特価品の販売だけでなく、地域の障がい者施設と連携して、授産製品の販売なども行われています。以前には、地元高校とお菓子メーカーの共同開発による新商品のテスト販売や中京大学の学生さんによる来客者への無料ぜんざい配布や市場アンケート調査なども行われたこともあり、学生さんの力や発想が同商店街の賑わいに大いに役立っているそうです。

「これからも自分たち商店街の力だけでなく、いろんなところと連携を積極的に進めていくことで、より一層地域住民に喜んでもらえる商店街を目指したい」と沢井さんは話されます。

また、毎月3日には、同商店街の中にある大沢屋さんの2Fで大正・昭和時代の生活道具などを多数展示する「街角資料館」が開催されています。同資料館では、愛知学院大や名古屋学芸大の学生さんと連携し、同資料館に親しみを持ってもらうために、学生さんによる来館者への歴史クイズなどにも取り組まれています。ぜひ一度お立ち寄りください！

商店街が地域の拠点に！「柴田商店街279(つなぐ)ステーション」の取り組み

南区にある「柴田商店街」では、「商店街が地域コミュニティの核に」との思いから、「チーム279(つなぐ)」を結成し、地域のつながりを作るための様々な活動を行っています。

特に子育て世代と学生の巻き込みを積極的に行っており、拠点である「279ステーション」では、毎週火曜に地域の子どもたちのたまり場として開放し、そこに大同大学の学生がボランティアとして学習支援等を行ったり、学生協力のもとイベントを行ったりしています。

学生が関わることで人手の確保や活気が出る一方、学生にとっても子どもたちとふれ合うことでコミュニケーション力が高まるのでお互いにとってよい関係になっています。

また279ステーションは商店街組合の他、多くの担い手によって運営されています。279ステーションに来た子どもたちの親で「ママ会」も組織されました。様々な方を巻き込み、多方面に波及しているのがとても魅力的です。

商店街の富田理事長、チーム279鹿島隊長は「今年度中には高齢者サロンも始まる予定。地域力の向上のため今後も取り組んでいきたい。」と話されます。新たな担い手の方も募集していますので、興味のある方は是非一度お問合せ、お立ち寄りください。

「チーム279」ホームページ <http://279.nagoya>



【編集・発行】名古屋市健康福祉局高齢福祉部地域ケア推進課 ・ 名古屋市社会福祉協議会総務部

Tel 052-972-2548 / Fax 052-955-3367